

令和4年(2022年)6月2日(木曜日)

三島駅前再開発、県が組合設立認可

事業進展 賛否の声

「計画ようやく前に進む」

三島駅南口東街区に広域健康医療拠点や高層マンションを建設する再開発事業は1日、県が公告した本組合の設立認可を受け、実施設計や権利変換計画作成などの具体的な作業に入る見通しとなった。関係者は「ようやく計画が前に進む」と喜ぶ一方、地元の反対派住民からは不満の声も上がった。

＝関連記事4面へ
の予定だ。

「疑問や不安払拭されず」

本組合の設立認可は当初想定していた4月末から1カ月遅れたものの、市によると「スケジュールに大きな影響はない」。事業は補助金の交付申請などを経て実施設計に入り、1年後をめどに地権者が所有する土地や建物の権利変換計画の作成、認可を目指す。2023年度には解体・建築工事が始まり、完成は26年度の予定だ。

事業に反対し、県に公開質問状を提出したNPO法人グランドワーク三島の渡辺豊博専務理事は「市民の疑問や不安は払拭されていない。県の認可は残念」と語る。地下水への影響や地盤の安全性などに懸念を示し、市や組合側には「しっかりとした情報公開と説明を求めると話した。一方、再開発を望む市民や地権者からは事業の推進を歓迎する声も。豊岡武士市長は「市民の代表である市議会の了解も得て進めてきた。民意は得ている」とし、「地下水や地盤の調査はしっかりと実施し、情報公開と市民の意見聴取も行ってきた。今後も続けていく」と述べた。